

郡山大会を終えて



大会運営委員長

佐藤 光男

1. はじめに

第35回全国学校図書館研究大会(郡山大会)は、2006年8月9日からの3日間、2,000名の参加者を得て成功裏に開催できた。全国各地からの参加者はもとより、御指導・御支援をいただいた福島県教育委員会、郡山市教育委員会、全国S L A、さらには分科会にも十分参加できずに運営に当たってくださった運営・実行委員の先生がたなど、関係者の皆様に心から感謝申し上げたい。

2. 大会までの経緯

(1)組織強化と研究深化

2001年度に福島県郡山市での全国大会開催が決定したのを受け、次年度には福島県学校図書館協議会組織の強化を図った。県内17地区各1名の校長代表の構成だったのを、地区校長代表小・中学校それぞれ1名ずつと高等学校教諭代表5名、それに開催市である郡山市から数名の校長・教頭を加えて組織し、大会準備に当たることにした。メンバーの入れ替えはあったが、この組織がそのまま第14回学校図書館夏期セミナーと全国大会の運営委員となった。あわせて、毎年開催してきた県研究大会では5つの重点に基づいた分科会を設定するなどして、全国大会に向けて組織的・継続的に開催県として恥ずかしくない実践研究を推進するようにした。そのためか、福島県内の学校図書館教育はかなり充実したものになりつつあり、全国大会開催のおかげだ

と知っている。

(2)開催準備の急加速

懸案だった会場となる郡山女子大学の借用が2004年1月によく見通しが付き、開催準備の具体的な仕事が急速に進んだ。

2004年度は全国大会を視野に入れつつ、第14回学校図書館夏期セミナー開催のために、受付事務取扱い旅行会社や要項等印刷業者の選定、郡山女子大学管財課や郡山市内で開催される全国規模の大会を全面的に支援してくれる郡山コンベンションビューローとの打合せなどが慌ただしくなされた。第13回学校図書館夏期セミナーから採用されたインターネット受付を郡山大会でも実施するためと、学校図書館活動の広報のため、福島県学校図書館協議会のホームページもこの年に開設した。

(3)前回大会に学ぶ

100以上の分科会と参加者2,000名もの大会を運営するのは並たいていではない。私どもは、滋賀県で開催された第13回学校図書館夏期セミナーと第34回全国学校図書館研究大会(びわこ・くさつ大会)に、運営の実際を学ぼうと参加させていただいた。当日は事務局の計らいで福島県関係者の控え所を本部の一角に設置していただいたうえ、準備や運営のポイントについて丁寧に教えていただいたり、運営マニュアルを提供していただいたりした。滋賀県の関係者にはその後も親身になって御助言いただき、本当にありがたかった。

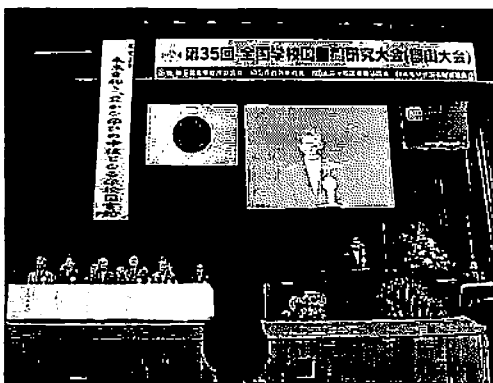
(4)研究主題設定と分科会構成

2005年8月、「豊かな学びを創造する学校図書館の活用」をテーマにして第14回学校図書館夏期セミナーを開催した。2日間で15分科会を設定し、400名を超える参加者で盛会裏に終了したが、このセミナーでひととおりの大会運営を経験したことは、全国大会での大きな力となった。

2005年秋以降は、研究部が中心となり全国SLA事務局とも何度も協議を重ねたうえで研究主題を設定し、①知的活動を促し、自ら学ぶ力を育てる学習・情報センターとしての学校図書館、②想像力を培い、豊かな心をはぐくむ読書センターとしての学校図書館、③多様なメディアを活用し、情報活用能力を育成する学校図書館、④学校図書館活用を高める司書教諭と学校司書等との協働、⑤地域の教育・文化を創造し、地域に開かれた学校図書館、という5つの重点事項に基づいて分科会構成を行った。セッション方式の分科会が大会成功の鍵(かぎ)を握るだけに、学校図書館教育の今日的課題解決に資するものに、日々の学校図書館活用や運営に資するものに、と分科会の内容・種別に工夫を凝らすとともに講師や発表者の人選に努め、約半年の時間と労力をかけてようやく確定し、2006年5月に全国各地への開催要項発送ができた。

3. 好評だった分科会等

1日目の午前は、銭谷眞美文部科学省初等



開会式での大会長あいさつ



アトラクションでのすばらしい演奏

中等教育局長をはじめとする御来賓をお迎えして開会式を行い、全体会で高橋正美研究部長が研究主題「未来を拓き、豊かな学びの中核となる学校図書館」についての基調提案をした。学力向上と豊かな心の育成に、学校図書館はこれまでも大きな役割を担ってきたが、「学校教育の中核」としては今後いっそう重要性が増していくことを踏まえ、知の開拓(フロンティア)をキャッチフレーズとした本大会で学校図書館教育について語り合い、実践への意欲が全国に広がることを願う提案であった。

アトラクションでは、昨年度まで2年連続で文部科学大臣奨励賞を受賞している福島県郡山市立郡山第二中学校管弦楽部のすばらしい演奏を聴くことができた。

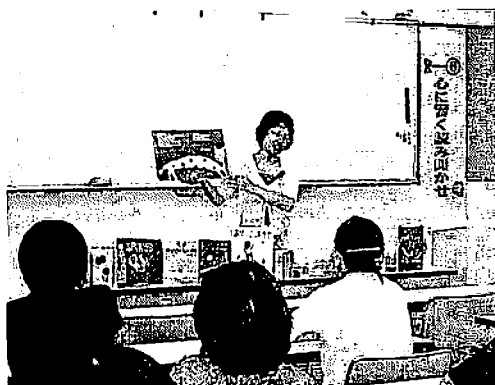
1日目の午後から3日目の午前までは108の分科会が行われ、熱心な討議等が活発になされた。中でも視察校見学、司書教諭ステップアップ講座、アニメーション・ブックトーク・手作り絵本・パネルシアターなどのワークショップは早くから定員に達してしまい、多くの参加要望にこたえられなかったものの、いずれの分科会も大変充実したものになったことを、主催者として大変うれしく思っている。

以下、参加者の声として寄せられた感想等を紹介する。

○L①「情報化」、自分は手探りだったので、

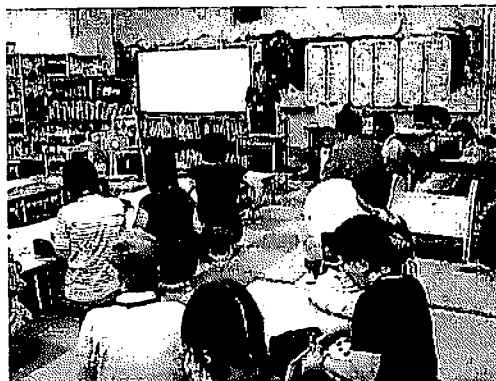
発表者から多くのヒントを得た。

- どの分科会も参考になった。特に野口英世の講演では会津弁の母シカの手紙の朗読がよかった。郡山まで来たかいがあった。
- フォーラム、シンポジウム、対話に大変充実した内容が揃っていてそれを楽しみに来た。
- 北村薫氏と高校生の対話、とてもおもしろく聞かせてもらった。
- テーマや分科会の種別が明確であった。すぐ使える実践も理論的な講義も興味深かった。



読み聞かせの実演

- 視覚障害児への支援の方法、具体的にどんなものを使って工夫してというところまでわかりありがたかった。障害児にかかわる分科会が4つもあったのは初めてだった。
- パスファインダー等、新しいことがわかり、挑戦してみようと思った。
- K④、お二人の先生の情熱あふれる発表、提示された資料の豊富さに圧倒された。日々の多忙の中で、これだけの取り組みをされる努力に学ばされること大であった。
- M④⑤、インターネットを利用する情報検索、目からうろこ……の講義だった。早速戻って作ってみます。
- A⑥、いわむら先生の人柄や作品に寄せる思いが伝わる講演だった。「見ようとすればよく見える」などのことばが印象深かった。
- 視察校見学はとてもよかった。実際に図書



視察校（郡山市立桜小学校）

館を見ることが参考になる。

大会運営等に関しては、「学校図書館の大会は女性が多く、WCが混むとか問題が多い中、女子大学が会場でWCが多く、きれいでよかった」、「日程的にゆとりがあり、図書の閲覧や購入等、分科会以外の情報交換も余裕をもってできた」、「スタッフの方々の細やかな心遣いと準備で気持ちよく参加させていただいた。速報『こおりやま』もよかった」など、多くの温かいことばがいただけた。

4. おわりに

大会成功の鍵(かぎ)は「充実した分科会」「ふさわしい会場」「行き届いた対応」と考えて準備を進めてきた。また、大会当日は「心を込めて笑顔で参加者を迎えよう」と運営に努力してきた。遠路参加していただいた先生がたに案内が不行き届きだったことなどの反省はあるものの、大きな成果が得られた大会であった。特に、全国大会等の開催が刺激となって福島県内の学校図書館教育の充実が図られてきたので、それをいっそう高めていければと思う。

また、全国からの参加者も本大会をとおして今後の各学校等での実践への意欲を新たに、学校図書館教育への思いを熱くしたに違いない。それが次回「火の国」熊本の大会でさらに燃え上がってほしいと願っている。

(さとう・みつお=福島県郡山市立芳山小学校長)